整理No.	64

平成26年度 施策評価シート（評価対象：H25年度）

【1．施策名】

施策コード	412-02	基本施策	家庭・学校・地域の連携による教育力の向上	所管部局	教育委員会
施　策　名	家庭・学校・地域の連携と交流の推進			主担当課	生涯学習課
				関係部局課	こども政策課･学校教育課
施策の目標	関係団体との連携強化や地域に開かれた学校づくりなどにより、家庭・学校・地域が連携・交流して子どもたちを守り育てていく環境を目指します。				

【2．施策に取り組む理由】

施策目標に対する市民ニーズの傾向及び、施策目標の達成に向けた市の役割など
地域に開かれた学校づくりなど、地域住民との連携を深めるとともに、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協働して、地域ぐるみで子どもたちと関わり、見守り育てていく環境づくりを目指す必要があるため。

【3．施策指標】

施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値(H22)	実績 H24	実績 H25	実績 H26	実績 H27	実績 H28	目標値(H28)
放課後子どもプラン実施校区数	校区	32	51	51				55
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
校内施設である「子どもプラザ」の開設など、児童の安全・安心な居場所を新たに整備した校区数	全ての児童に対して放課後等の安全で安心な居場所を提供するため、全小学校区で放課後子どもプランの実施を目指す。							

施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値(H22)	実績 H24	実績 H25	実績 H26	実績 H27	実績 H28	目標値(H28)
学校ごとの学校評議員会の年間の開催回数	回	2	2	2				2
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
学校と評議員が年間どの程度協議しているか	家庭や地域との連携協力のもと、特色ある開かれた学校づくりを実現するため、学校長が学校評議員から幅広く意見を聞く。							

25年度の取組内容実績	・放課後子どもプランは、新たにスタートした1校区を加え、52校区（後町小学校閉校に伴い1減となり実質は51校区）でプランを実施し、地域のボランティアであるアドバイザー制度の活用により、子どもたちに各種体験活動の機会を確保した。 ・学校評議員会は、各学校とも年2回から3回開催しているほか、音楽会や運動会など、学校行事ごとに評議員に参加していただき、機会あるごとに意見を伺い、開かれた学校づくりを進めた。

【4．総合評価】

総合評価　（目標値に向けて）	概ね順調
	評価の理由・説明等
適応性 市民ニーズや社会経済状況の変化に柔軟に対応しているか	・放課後子どもプランは、小学校内での居場所の拡充の協議を進め、対象学年拡大の保護者ニーズに対応するとともに、多様な児童に対応するため、指定管理者が配置する「巡回指導員」による指導員への研修・指導を行うなど、指導員の資質向上を図った。 ・学校評議員会開催のほか、音楽会や運動会などの学校行事にも参加していただき意見を伺うことで、地域住民のニーズの把握に努め、学校運営に反映した。
達成度 施策の目標達成に向けて順調に進んでいるか	・放課後子どもプラン実施校区の拡充に伴い、地域住民をアドバイザーとして登録を進め、アドバイザーによる各種体験活動の提供により、子どもたちとの交流の機会が増えている。 ・学校評議員会は、地域住民から様々な意見を聴くことにより、学校運営の改善につながり、地域に開かれた学校運営が推進されている。
事業の成果等 施策を構成する事務事業は目標を達成しているか	・放課後子どもプラン実施校区数はおおむね順調に推移しており、平成28年度に全55小学校区での実施の目途がたっている。 ・学校評議員会は、目標値を達成しており、概ね順調に事業を展開している。

【５．今後の展開】

	課　　題	課題解決に向けた具体的な取組
1	児童数の増加などにより、対象学年の拡大までに至らなかった校区がある。また、「放課後子ども総合プラン」が策定され、すべての希望児童の安全・安心な居場所の確保を平成31年度に達成するよう、計画的な整備が求められている。	学校の理解と協力を得て居場所の拡充に努め、留守家庭児童（6年生まで）の受け入れを優先していく。なお、放課後子ども総合プランの策定により、留守家庭児童を含む希望児童の受け入れを早急に進める必要があることから、学校内の教室の状況や児童数の増加などにより、余裕教室の活用が困難な場合は、長野市版放課後子どもプランの基本方針の見直しの検討も踏まえ、希望児童の受け入れを進める。
2	平成26年度から学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを進めるための制度である「コミュニティスクール」の導入を進めており、目的が同じである学校評議員制度の方向性を検討していく必要がある。	コミュニティースクールを小中全校で推進していくが、学校評議員制度については、全校でコミュニティスクールの仕組みが確立するまでは、将来的な方向性を検討しながら継続していく。

施策展開の方向性（H26年度以降）	・平成26年度中に「子ども子育て支援事業計画（H27～31）」が策定されることから、本計画に基づき、計画的に放課後の居場所の拡充を進めていく。 ・これまで築き上げてきた学校と地域が連携して子どもを育てる取組を土台にして、地域住民が①学校運営参画②学校支援③学校評価を一体的・持続的に実施していく仕組みであるコミュニティスクールを推進し、学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。

【６．施策を構成する主な事務事業】

番号	事務事業名 ［事業区分］ 担当課名	事務事業の概要	事業の取組実績・成果
1	国補・放課後子どもプラン推進 ［サービス提供事業］ 生涯学習課（こども政策課）	既存の児童館等のほか、新たに小学校施設内に開設する放課後等の居場所において、アドバイザー制度による各種体験活動を提供する「長野市版放課後子どもプラン」を、地域の協力を得て実施する。	平成25年度は新たにスタートした1校区を加え52校区（後町小学校閉校に伴い1減）でプランを実施しており、当初目標どおりの実績となっている。また、小学校内での居場所の拡充の協議を進め、対象学年の拡大に向けた受け入れの態勢を整備した。
2	学校評議員会運営 ［サービス提供事業］ 学校教育課	学校長が保護者及び地域の住民から幅広く意見を聞き、家庭や地域との連携協力のもと、特色ある開かれた学校づくりを実現する。	各学校年2回から3回開催しているほか、音楽会や運動会など学校行事にも評議員に参加していただき意見を伺った。
3	青少年育成環境整備 ［サービス提供事業］ 生涯学習課	市民の青少年健全育成に対する意識の高揚を目的に、「青少年健全育成フェスティバル」の開催、標語、作文、ポスターの募集及び表彰	・青少年健全育成フェスティバル H25参加者数　150人 ・標語、作文、ポスターの募集 H25　標語　896点　作文　10点　ポスター 91点
4			

番号	事務事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
	達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
1	B	A	A	C	B	拡充	599,068	648,983	655,663	696,391
2	B	A	B	A	B	継続	2,121	2,093	2,066	2,332
3	B	B	B	B	B	継続	26,824	25,385	25,154	26,717
4										

5		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
6		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
7		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
8		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
9		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
10		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		事業の分析結果						年度別事業費（千円）（H26は予算額）			
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26